

講  
演

第23卷 第1號 昭和12年1月

## シヤム國有鉄道に就て

(昭和11年9月28日 土木學會第71回講演會に於て)

ブィデュラ ブィデュコール\*

On the Royal State Railway of Siam

By Vidura Vidhikol.

皆様の御許しを願ひまして、今夕は貴國語でも又私共の國語でもない英語で御話致しますのは私にとりましては寧ろ不自由でありますことを申し上げてから始めたいと思ひます。私は今演壇に立ちましたが、皆様は私の演題につきまして不思議に思つておられる事ゝ思ひます。斯くの如き名聲ある技術者の御集りの面前に於きましては、誰しも技術的題目から離れられないのが普通でありますが、併し乍ら皆様、私は若年の技術者であり且つは私如き経験の浅い者のことゝて、主題につきまして充分に論ずることが出来ないのではないかと心配致して居ります。論を進めて参ります前に先づシヤム國有鉄道が私を此の國に派遣するに至りました理由は、日本機關車及車輛製造組合に註文致しました8輛の蒸氣機關車建造の監督と共に、日本國有鉄道の經營について学ぶ爲とで御座ります。此の國に滞在中多くの日本の友人達から屢々二つの質問を受けましたが、其の1は“日本の鉄道技術について私がどう思ふてゐるか”第2は“シヤムの鉄道が如何なる状態であるか”といふことあります。其故此の2問について御答へすることが短い講演においての演題と致しましては比較的興味のあることゝ思ひます。

第1の間に對する答から始めますと、私の思ひ違ひでないと致しますれば、世界大戦の時代までは日本に於ける鉄道技術は西歐諸國より可なり後れておましたことゝ思ひますが然し其の後の發展は迅速であります。かゝる短期間に如何ばかり技術的に進歩を遂げたかといふことにつきましては、日本はあらゆる鉄道材料を國內の需要を充たすに足る以上に製造することが出来ますので、其の餘剰製品は海外に輸出されつゝあるのを見ましても了解されるのであります。之は蒸氣機關車についても當てはまるのでありますが、電氣機關車におきましては目下日本國有鉄道で作業して居ります車の多くは最近までは獨逸、英米等に於て註文により製造されたのであるといふことを聞いて居ります。然し現在では非常に多くの製造工場が日本に御座ります例へば芝浦製作所、日立製作所、三菱重工業株式會社及川崎車輛會社は之等の機關車を製作して居り1932年に其の中7輛を完成し運転に供したのであります。鉄道車輛に關する限りは日本の製造家は既に確固たる地位を獲得して、今や外國の製造家達と此の種製品の輸出に於て競争する立場にあると信じて疑ひません。我國の鉄道から發せられる鉄道材料例へば軌條、鋼橋、機關車及貨車等の最近の見積りの大部分が日本に參ります事實が私の前に述べましたことを證明してゐると思ひます。更に機關車製造工場を訪問致しまして、非常に澤山の機關車や客車が滿洲國、朝鮮及其他の私設鐵道の註文によつて造られて居りますことを知りましたのであります。其故私はシヤム國有鉄道がむく多數の機關車を日本の機關車及車輛製造組合に唯單に價格が最低であるといふことのみならず材料及技倅が共に優れてゐると知つて註文致しましたことは正しい行き方でありましたことゝ喜んで申上げる次第で御座ります。此の多數の機關車は

\* シヤム國有鉄道運転課長

他の國に註文して出來た機関車と同様に操作が簡単であると同時に効率に於ても、假令それ等より優れてはゐない、としましても、最上級に屬するものであるといふことが判明するに違ひないのであります。

第2の間に對する答へに移ります前に、シヤムの地理の極簡單な輪廓を御話しておきたいと思ひます。シヤムの國境は次の通りであります、即ち北部はビルマに連り、南方は馬來國に境し、東部は印度支那で西部は印度洋とビルマであります。面積は約 518 000 km<sup>2</sup> で人口は大約 1200 萬人であります。バンコックは首都で御座ります。國の中央部は實質的には平坦でありますので澤山の河川が其の中を通過してゐますので此の國の重要な産業をなす農業に全く適當した土地となつてゐます。主なる輸出品は米であります最近得られました數字によると 100 萬噸以上の米が年々輸出されて居ります。其の次は錫とチーク材でありますチークは最良の木材として世界中に知られて居ります。人口稀薄な爲にまだ耕作されない土地が今尚可なり殘つてゐます。之等の事實を心得ておかれますならばシヤムの鉄道の大要を御想像出来ますことゝ思ひます。政府の所有で且つ自ら運転されました鉄道は最初 1897 年に開設されましたが其の時バンコックとアユダ間延長 72 km の線路が敷設され現皇帝陛下の御祖父に當らせらるゝ Rame 5 世皇帝によつて開通されたのであります。其以來鉄道の建設は進展し現在では總軌程 3 300 km 余に達し各種の労働者を加へまして大約 12 000 の職員を有するに至つて居ります。軌道は馬來國、ビルマ、印度支那と同様メートル軌間であります。支線を考へなければ 3 線に分たれます。即ちバンコックから Chiengmai に達する延長 751 km の北部線、バンコックから Padang Besar に至る延長 974 km の南部線とバンコックから Chol に達する延長 476 km の東北線とであります。目下東北線の延長線が建設中で 2、3 年の間には完成され開通の豫定であります。

建設線の他にシヤム國有鉄道は印度支那及ビルマに連絡する數多の鉄道を企畫して居り、其等の線の測量は殆ど完成し機會があり次第建設にかゝることになつて居ります。シヤムに於ては運輸量は概してそれ程大量ではありませんので、運輸量に對応して漸時複線に増設されつゝあります。バンコックの周囲を除いては、一般に國內を通じて單線が敷設されて居ります。創始以來今日に至る我が鉄道の全天下資本は大約 200 000 000 Baht であります。其れは 300 000 000 円に當ります。營業成績の低下しない以前には毎年の純益が約 20 000 000 Baht ありましたが、現在で總收入が約 13 000 000 Baht に下つて居ります。申し上げました總益金の約 40% は旅客收入によるもので 60% 程が貨物收入によるものであります。

車輛に關しましては、シヤム國有鉄道は東洋諸國の鉄道の中 21 輛ものディーゼル電氣機関車を有し、11 000 馬力以上のディーゼル牽引力を包含する唯一の鉄道であるといふことは自慢致したいであります。バンコックとバドンベサルとの間を走る國際急行列車の運転に又他の普通急行列車及快速列車に此の型式の機関車を利用致して居ります。ディーゼル電氣機関車の輸入されます迄は國際急行列車は蒸氣機関車によつて運転され目的地に到達するのに 26 時間以上を要しましたがディーゼル電氣機関車を使用することにより 4 時間以上短縮されたのであります。更に、清潔なことゝ乗心地よい走行といふことについては申すまでもなく、運転費は修繕費と同様遙に少額であるといふことを知りましたのであります。

終りに際し御親切なる御招待に對し深甚なる謝意を表したいと存じます。

註 本講演は英語を以て話されたが本文はその全文譯である。